



第 3 章

障がい者福祉に関するアンケート 調査結果からみた状況

1 アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

障がい者計画策定にあたり、障害者手帳所持者を対象としたアンケート調査を行い、障がい者の生活実態や今後の意向等を把握するため実施しました。

(2) 調査の設計と回収状況

調査対象者	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持している障がい者（児）
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
発送数	2,900 票
有効回収数 (有効回収率)	1,724 票 (59.4%) ・身体障がい者：1,008 票 ・知的障がい者：225 票 ・精神障がい者：253 票 ・重複：189 票 (身体・知的障がい者：83 票) (身体・精神障がい者：75 票) (知的・精神障がい者：13 票) (身体・知的・精神障がい者：18 票) ・不明：48 票
調査期間	平成 28 年 12 月 7 日～12 月 21 日

※有効回収数の「不明」について：身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所有の有無のすべてが「持っていない」または「無回答」となっている回答者について「不明（無回答）」としている。

(3) 調査結果の見方

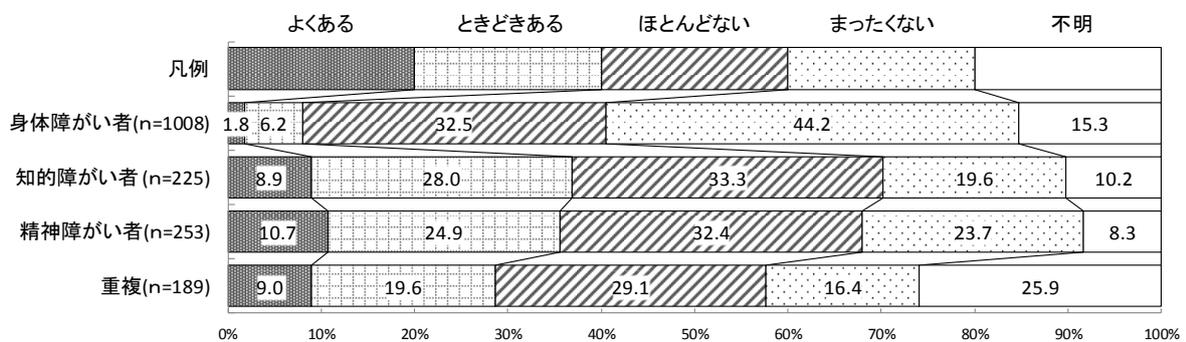
本人用調査（在宅・施設）では、本人が回答したもののほかに、家族等が代筆または代理で回答したものを含んでいます。児童用調査は保護者に回答していただいたものとしています。比率は、すべて百分率（％）で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答の質問では、各選択肢の比率の合計は 100%を超えます。

2 アンケートの主な結果

(1) 障がいによる差別経験の有無について

障がいによる差別経験の有無について、「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』と回答した人が身体障がい者で約1割、知的障がい者、精神障がい者では4割弱となっており、身体障がい者と比べて高くなっています。

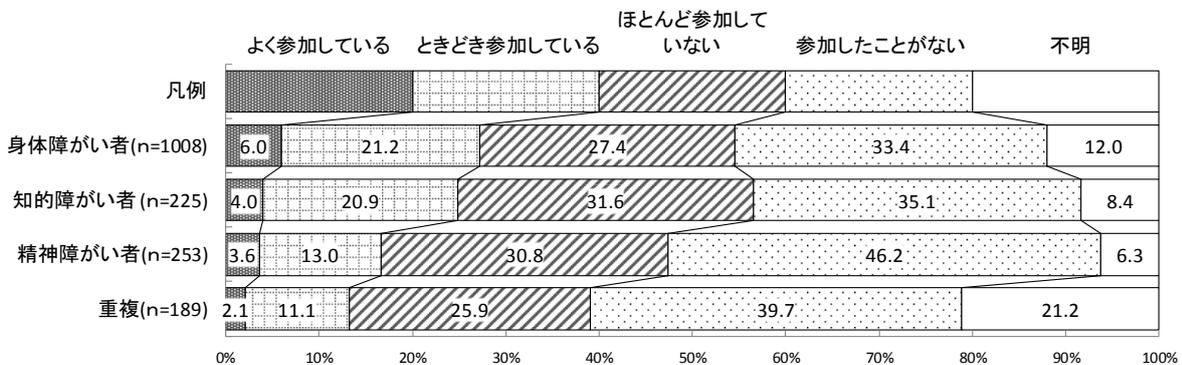
障がいによる差別経験の有無



(2) 地域活動への参加状況について

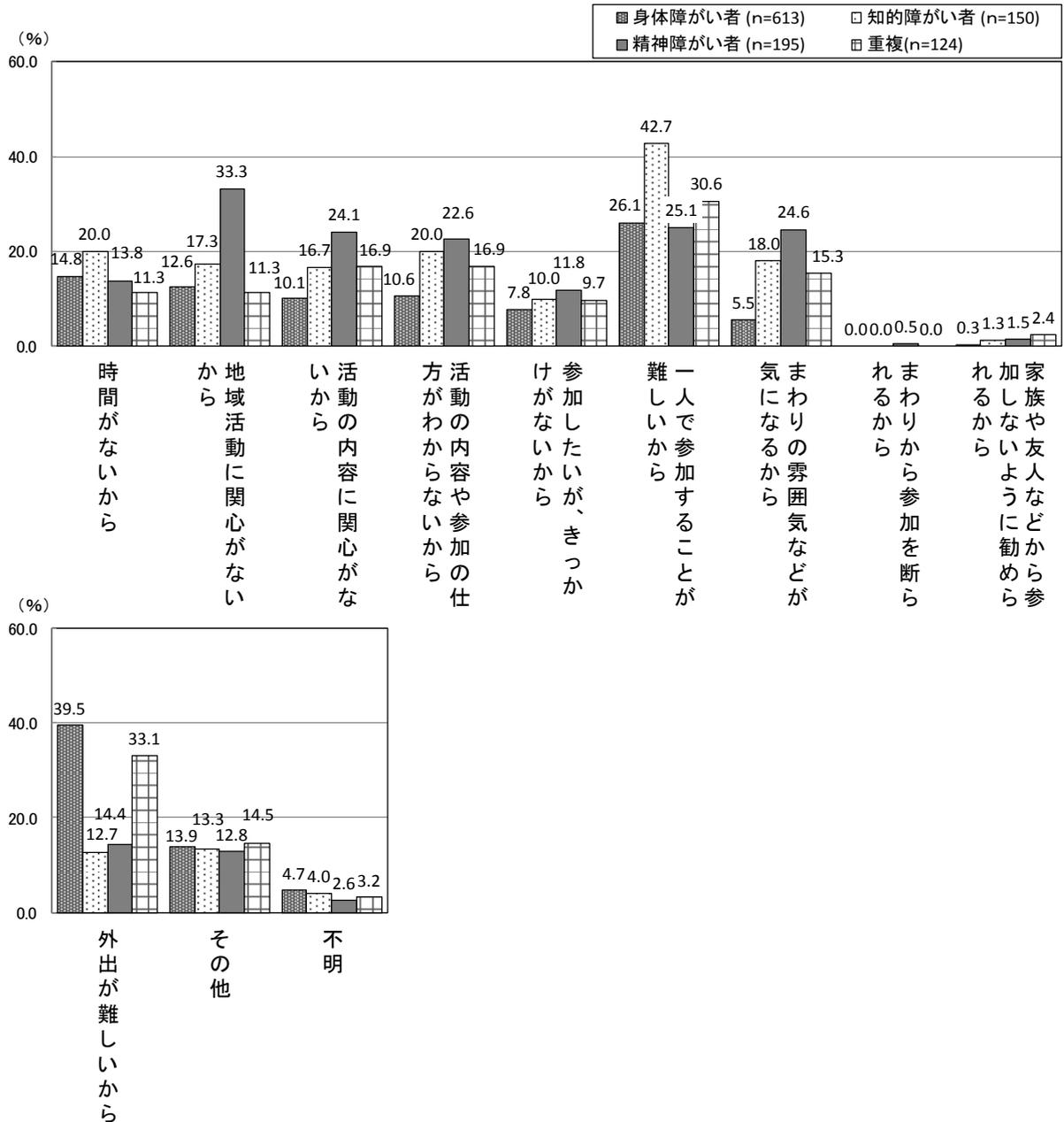
地域活動への参加状況について、障がいの種類別に比較すると、身体障がい者・知的障がい者では「参加したことがない」と「ほとんど参加していない」を合わせた『参加したことがない』が6割、精神障がい者では約7割となっています。

地域活動への参加状況



地域活動に参加しない理由について、身体障がい者では「外出が難しいから」、知的障がい者では「一人で参加することが難しいから」、精神障がい者では「地域活動に関心がないから」の割合が高くなっています。

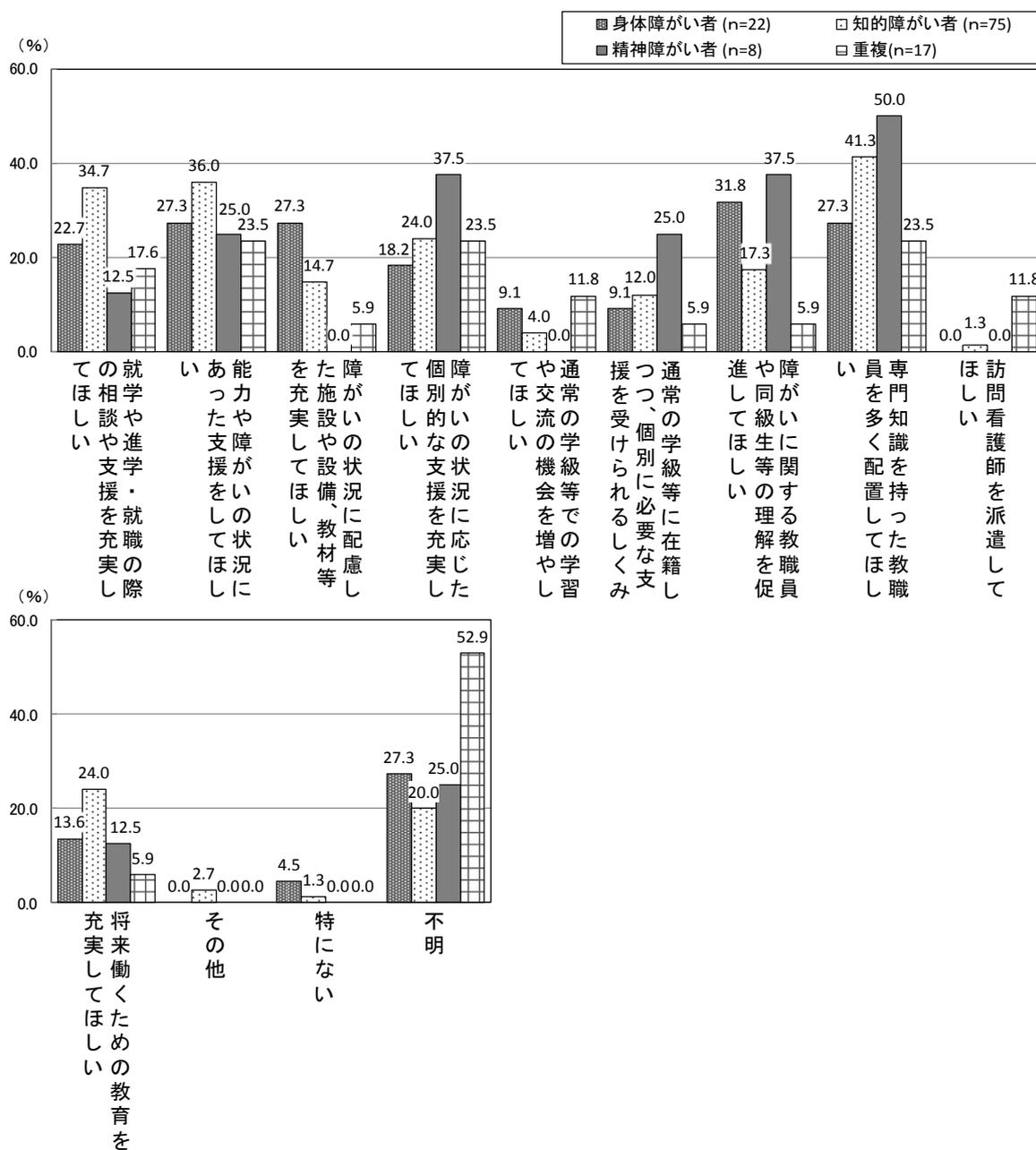
地域活動に参加しない理由



(3) 保育や教育に関する要望について

保育や教育に関する要望について、身体障がい者では「障がいに関する教職員や同級生等の理解を促進してほしい」が約3割、知的障がい者・精神障がい者では「専門知識を持った教職員を多く配置してほしい」が半数を占めています。

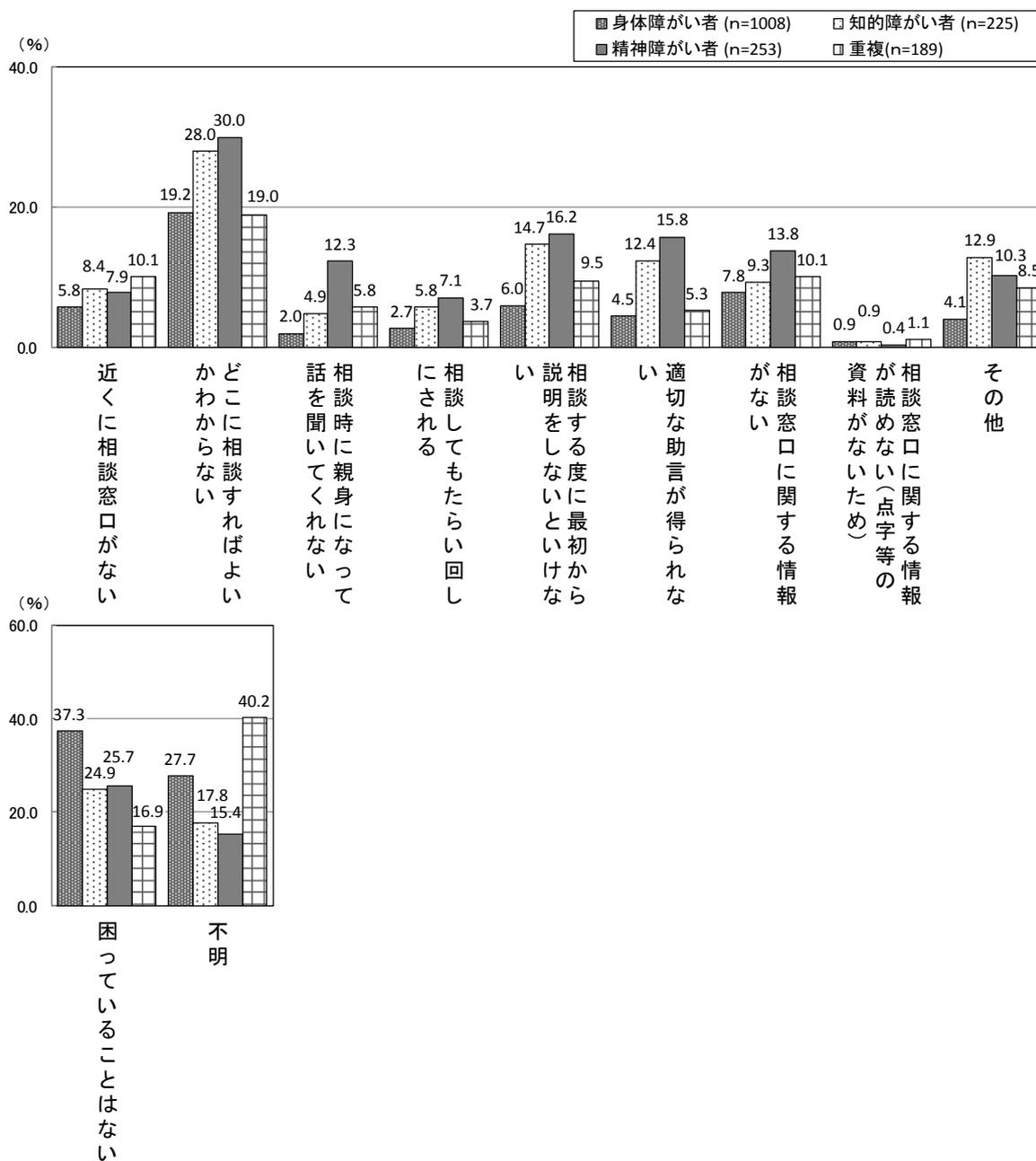
保育や教育に関する要望



(4) 不安や悩みを相談する際に困ることについて

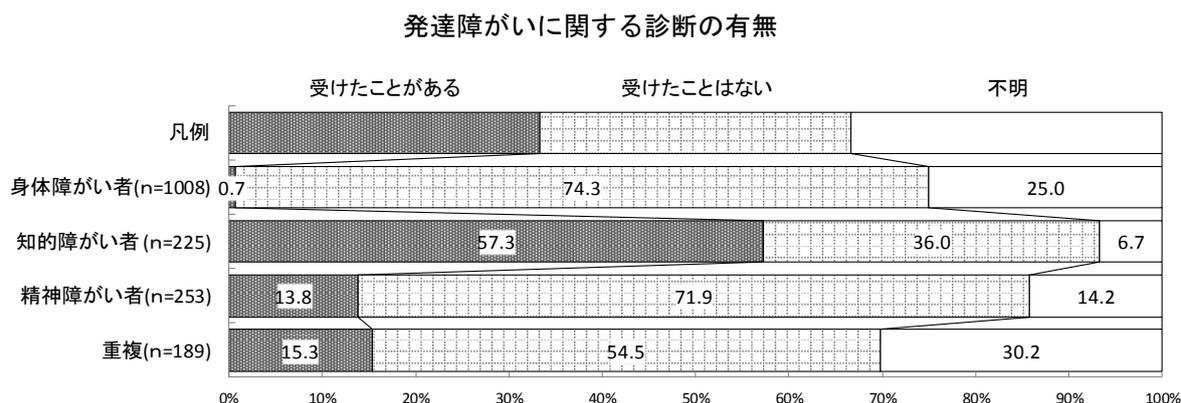
不安や悩みを相談する際に困ることについて、3障がいともに「どこに相談すればよいかわからない」の割合が高くなっています。身体障がい者に比べ知的障がい者、精神障がい者で「相談するたびに最初から説明をしないとイケない」の割合が高くなっています。

不安や悩みの相談相手

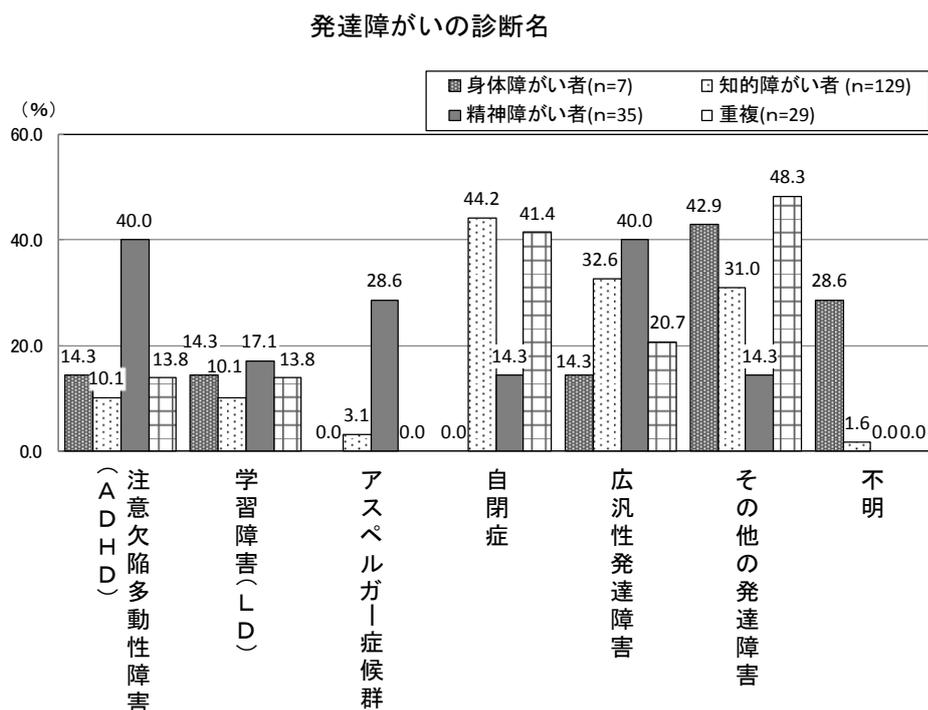


(5) 発達障がいについて

発達障がいに関する診断の有無について、障がいの種類別に比較すると、知的障がい者では「受けたことがある」が約6割となっており、他の障がいの種類と比べて高くなっています。また、年齢別にみると、3障がいともに18歳未満で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



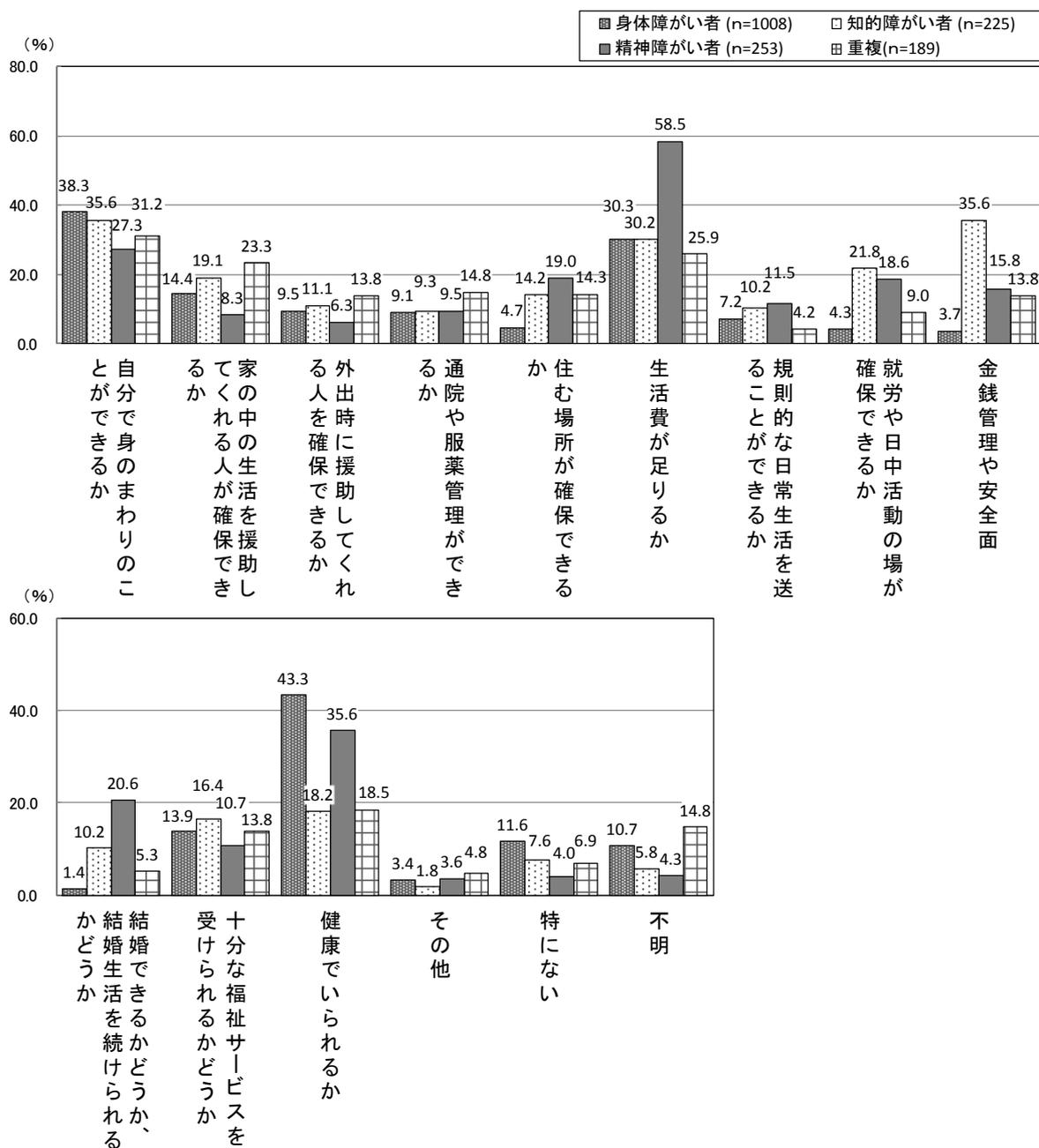
発達障がいの診断名について身体障がい者では「その他の発達障がい」、知的障がい者では「自閉症」、精神障がい者では「注意欠陥多動性障害（ADHD）」及び「広汎性発達障害」がそれぞれ約4割と最も高くなっています。



(6) 将来を考えたときの不安について

将来を考えたときの不安について、身体障がい者では「健康でいられるか」の割合が高く、精神障がい者では、「生活費が足りるか」の割合が高く、知的障がい者では、「自分で身の回りのことができるか」と「金銭管理や安全面」と答えた割合が高くなっています。

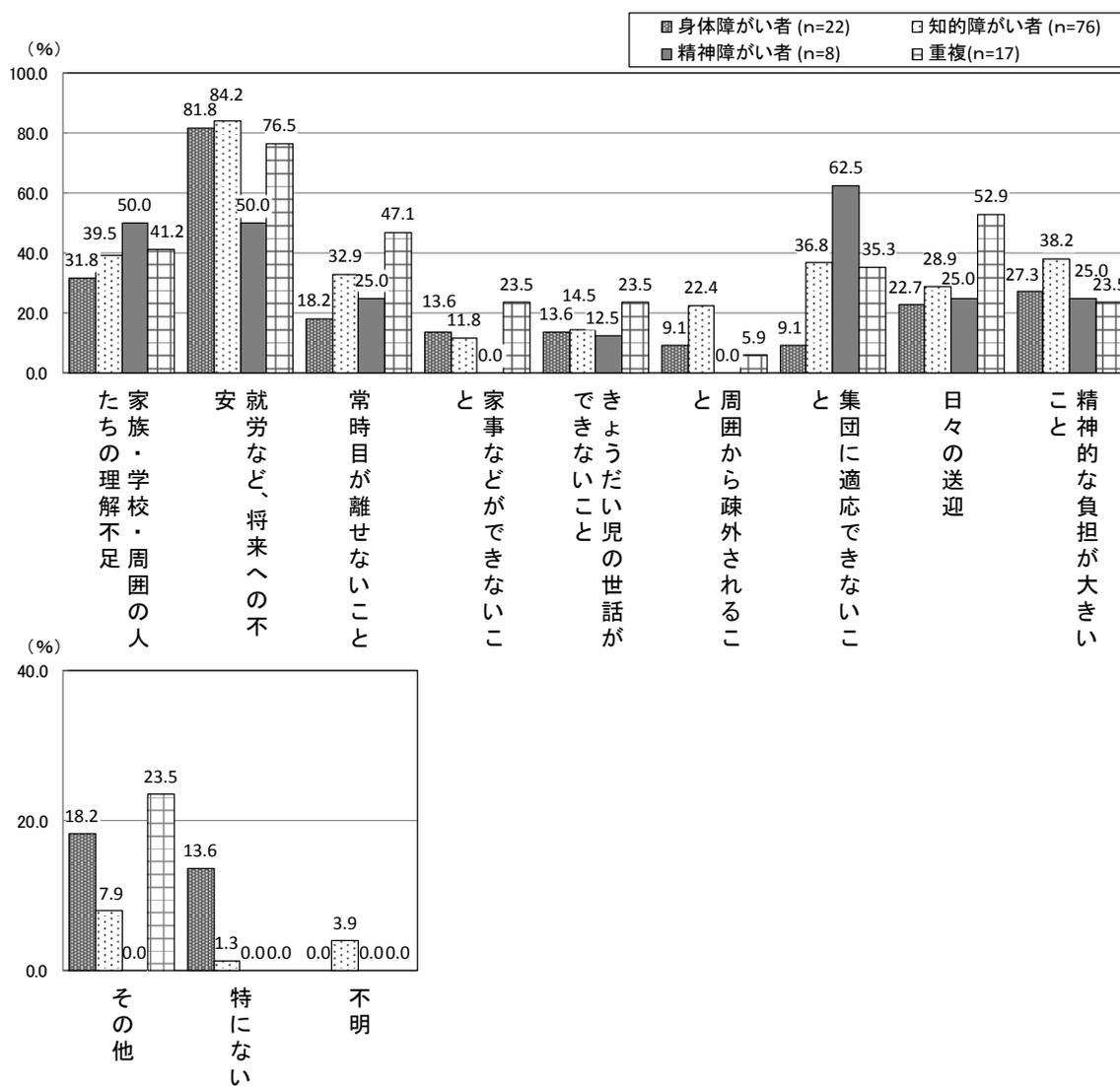
将来を考えたときの不安



(7) 子育て上の悩みや困りごとについて

子育て上の悩みや困りごとについて、身体障がい者・知的障がい者では「就労など、将来への不安」、精神障がい者では「集団に適應できないこと」が最も高くなっています。

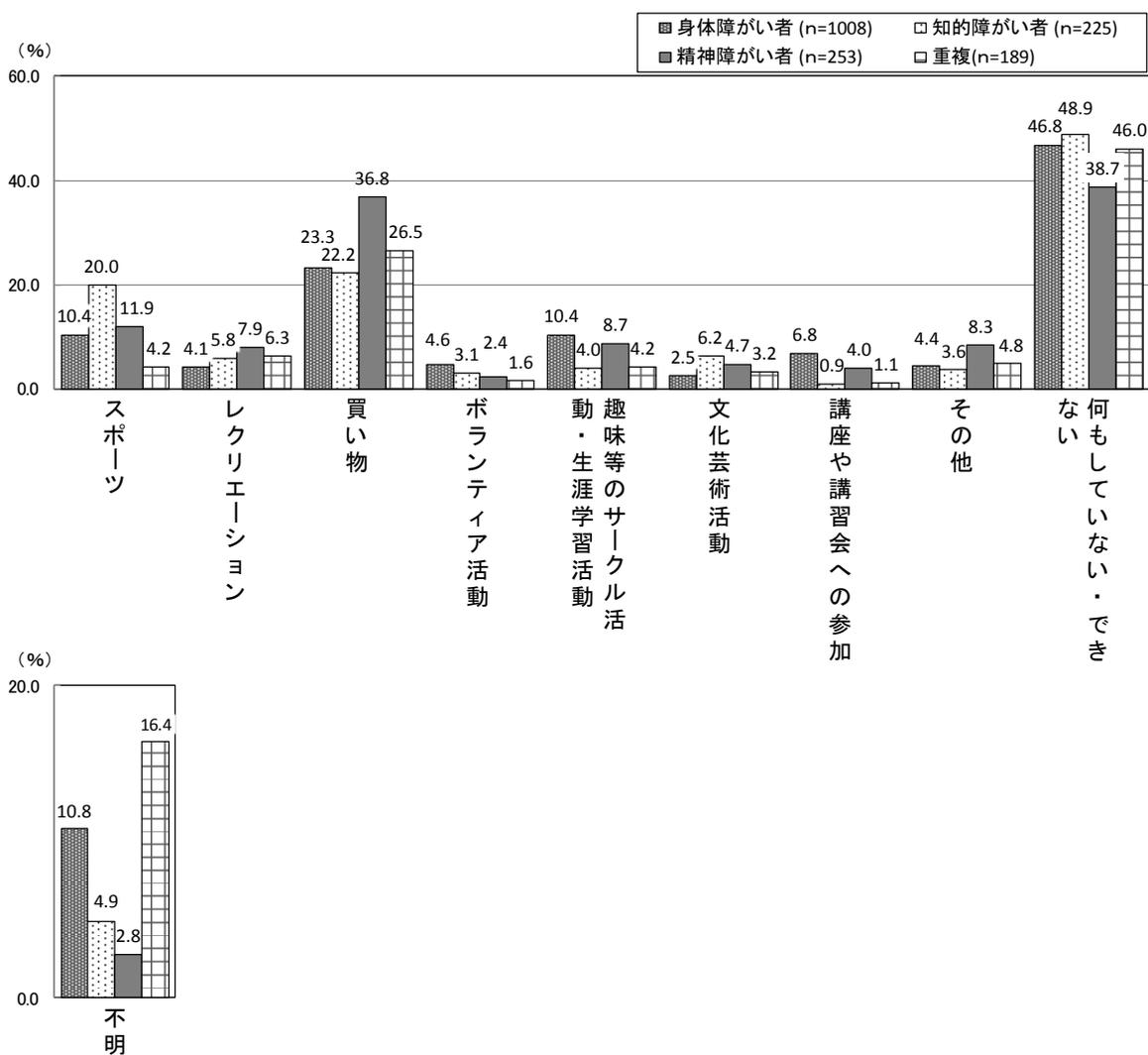
子育て上の悩みや困りごと



(8) スポーツや文化活動等への参加について

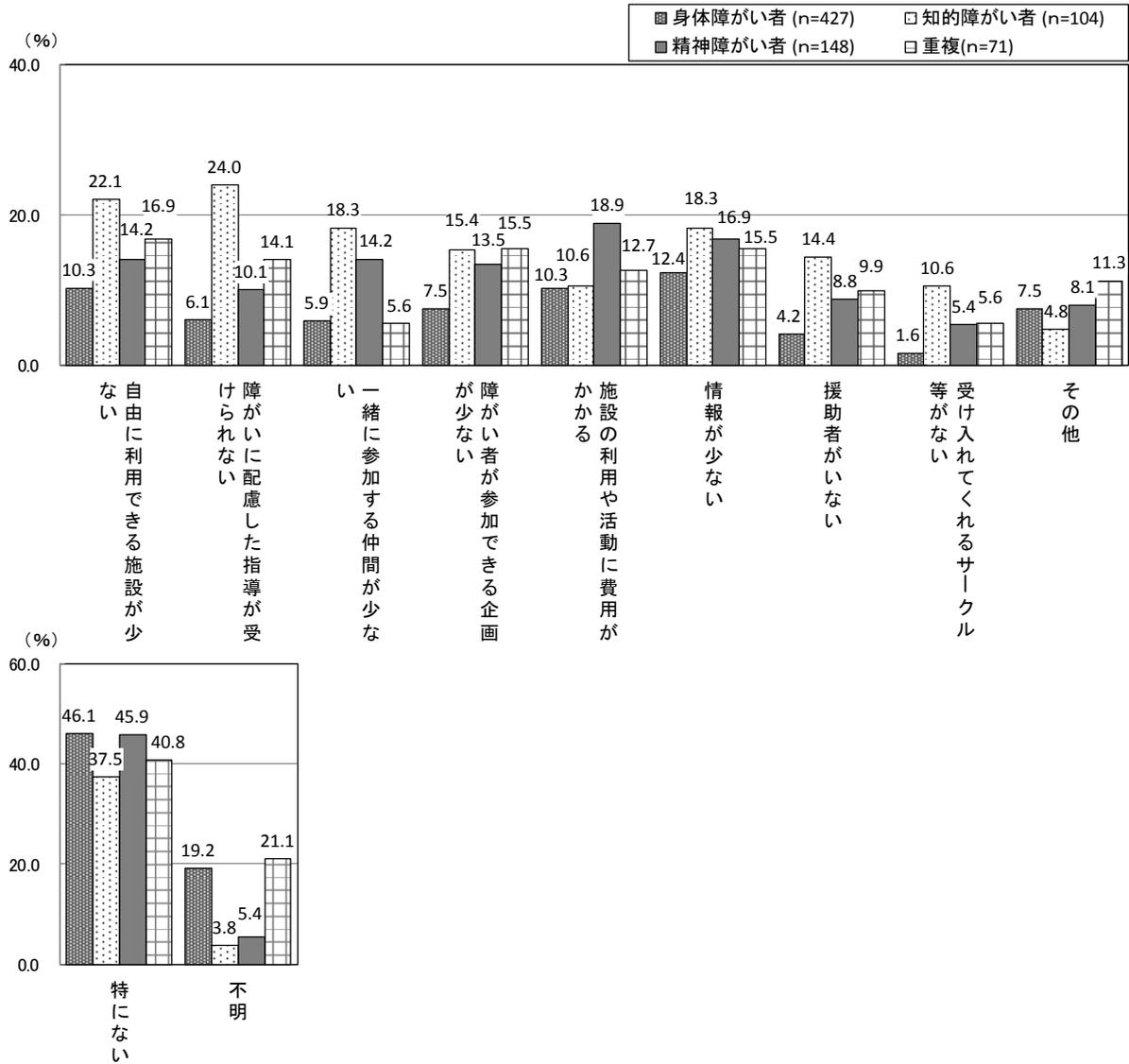
スポーツや文化活動等に特に参加していない障がいのある人が4割を超えています。

スポーツや文化活動等の有無



スポーツや文化活動上の支障や困りごととしては、知的障がい者では「自由に利用できる施設が少ない」「障がいに配慮した指導が受けられない」が約2割と、他の障がいの種類と比べて高くなっています。

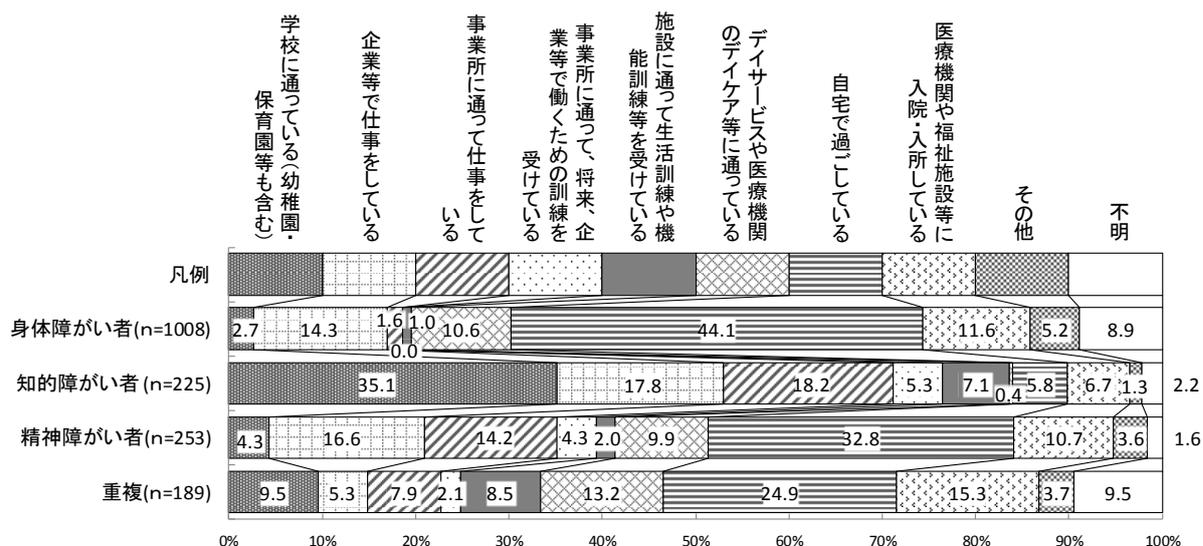
スポーツや文化活動上の支障や困りごと



(9) 障がいのある人の就労状況について

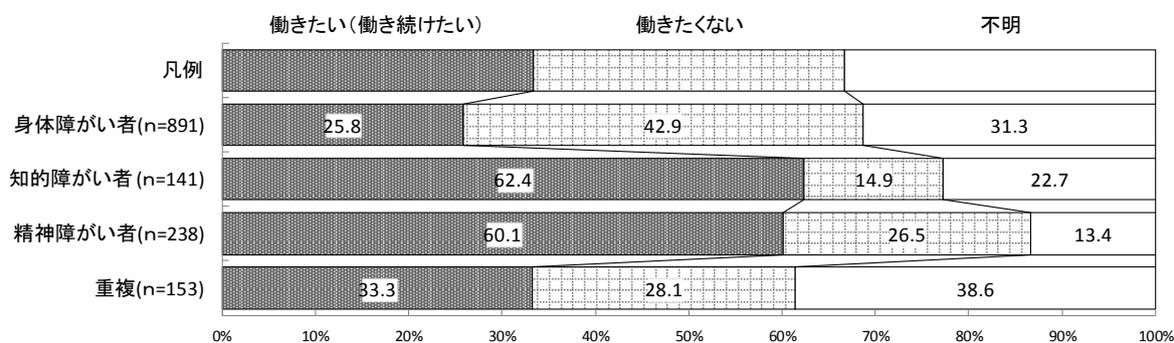
就労している人は身体障がい者で2割、知的障がい者で4割、精神障がい者で3割となっています。

日中の主な過ごし方



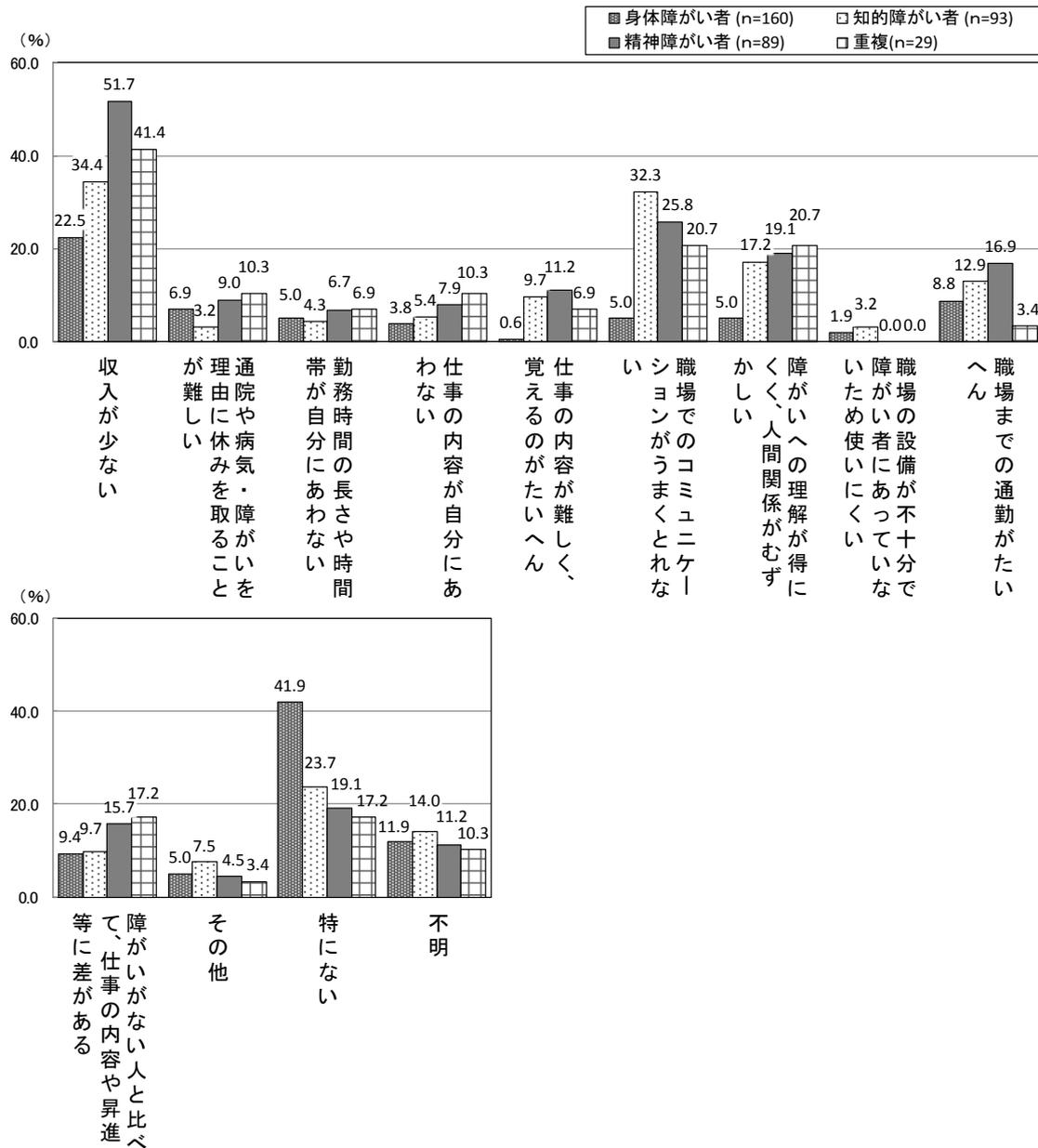
今後の就労意向について、知的障がい者・精神障がい者では「働きたい(働きたい)」が6割台と、身体障がい者と比べて高くなっています。

今後の就労意向



(就労している人の) 仕事上の悩みや困りごとについて、精神障がい者では「収入が少ない」が5割を超え高くなっています。知的障がい者では「収入が少ない」「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」が3割を超えています。

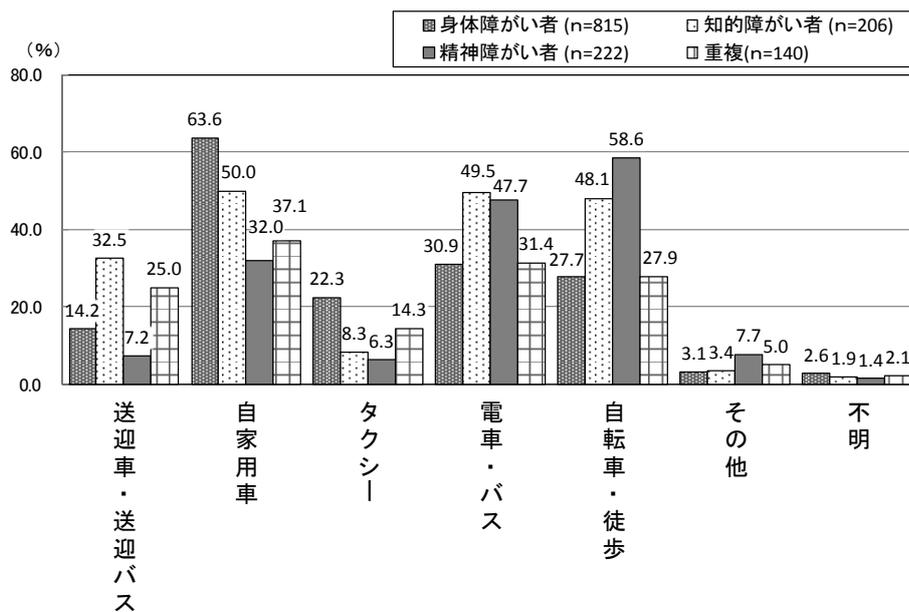
(就労している人の) 仕事上の悩みや困りごと



(10) 外出時の交通手段について

外出時の交通手段について、身体障がい者・知的障がい者では「自家用車」が最も高く、精神障がい者では「自転車・徒歩」の割合が最も高くなっています。

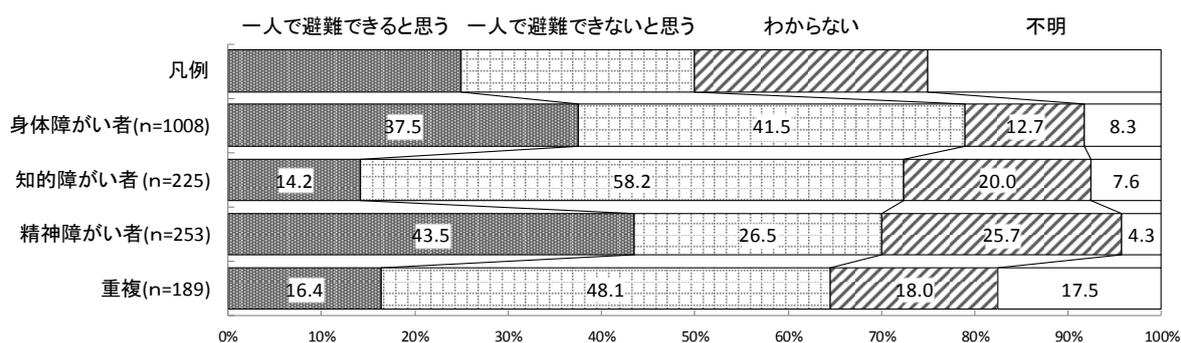
外出時の交通手段



(11) 災害時について

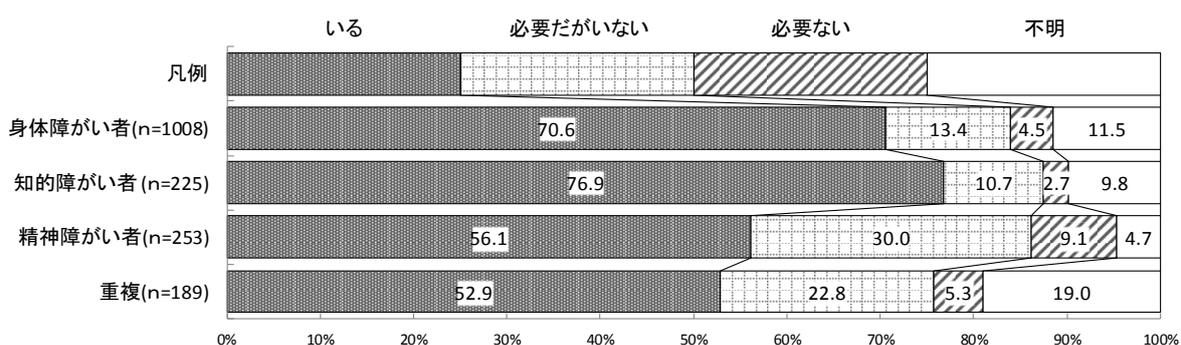
地震など災害発生時に一人で避難することについて、知的障がい者・重複障がい者では「一人で避難できないと思う」が4割～5割と、他の障がいと比べて高くなっています。

災害等の緊急時の避難可否



災害等の緊急時に頼れる人の有無について、精神障がい者・重複障がい者では「必要だがいない」が2割～3割と高くなっています。

災害等の緊急時に頼れる人の有無



(12) 今後行政に力を入れて欲しいことについて

今後行政に力を入れて欲しいことについて、精神障がい者では「経済的支援の充実」が約4割と最も高く、「雇用・就業支援」が2割半ば、「情報提供の充実」が約2割となっています。

今後行政に力を入れて欲しいこと

